

第Ⅲ部 調査結果の詳細

【報告書を読む際の注意】

- (注1) 小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が全体の計に一致しないことがある。
- (注2) 「n」は「number of case」の略で、質問に対する回答者の総数を表す。
- (注3) 図中「0」、表中「-」は皆無を示す。
- (注4) 図表中の選択肢は、回答率の高い順に並び替えている場合がある。また、表記の語句を短縮・簡略化している場合がある。
- (注5) 《 》は、2つ以上の選択肢を合わせて分析する場合に用いる。また、この場合の比率は実際の回答者数の合計から算出しているため、個々の比率の単純な合計とは値が異なる場合がある。
- (注6) 数値間の比較で大小関係を示す場合は、個々の選択肢の比率の差を取り、「…ポイントの差」という表現を使っている。
- (注7) 男女の18～19歳などのサンプル数の少ない属性については参考値であり、グラフ上で数値が高いものでも有意差がなく、分析で触れていない場合がある。
- (注8) 【地域別の状況】【性・年代別の状況】の図表では、地域や性・年代が不詳の者がいるため、内訳の合計が全体の回答者数と異なっている。

第1章 暮らし全般について【問1～問5】

1 生活総合満足度【問1】

【全体の状況】

現在の生活全般についてどの程度満足しているか尋ねたところ、「たいへん満足している」(7.7%)と「どちらかといえば満足している」(51.8%)を合わせた《満足している》は59.5%となった。

一方、「たいへん不満である」(2.7%)と「どちらかといえば不満である」(13.4%)を合わせた《不満である》は16.1%で、《満足している》が《不満である》を43.4ポイント大きく上回った。

また、「どちらともいえない」は20.5%であった。(図表1-1-1)

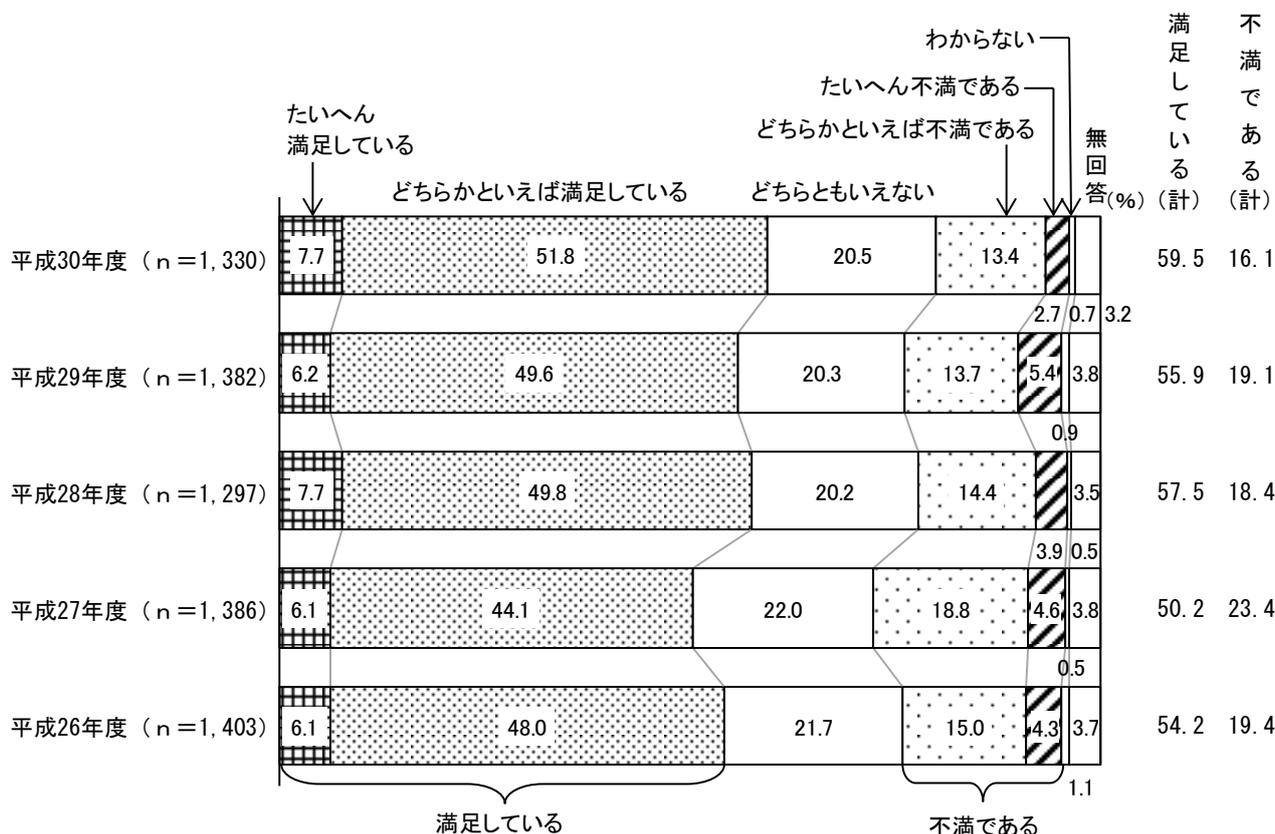
【過去との比較】

過去4年間の調査と比較すると、《満足している》では、平成29年度は平成28年度と比べて1.6ポイント減(57.5%→55.9%)であったが、平成30年度は平成29年度と比べて3.6ポイント増(55.9%→59.5%)となった。

一方、《不満である》では、平成29年度は平成28年度と比べて0.7ポイント増(18.4%→19.1%)であったが、平成30年度は平成29年度と比べて3.0ポイント減(19.1%→16.1%)となった。

(図表1-1-1)

図表1-1-1 生活総合満足度—過去との比較

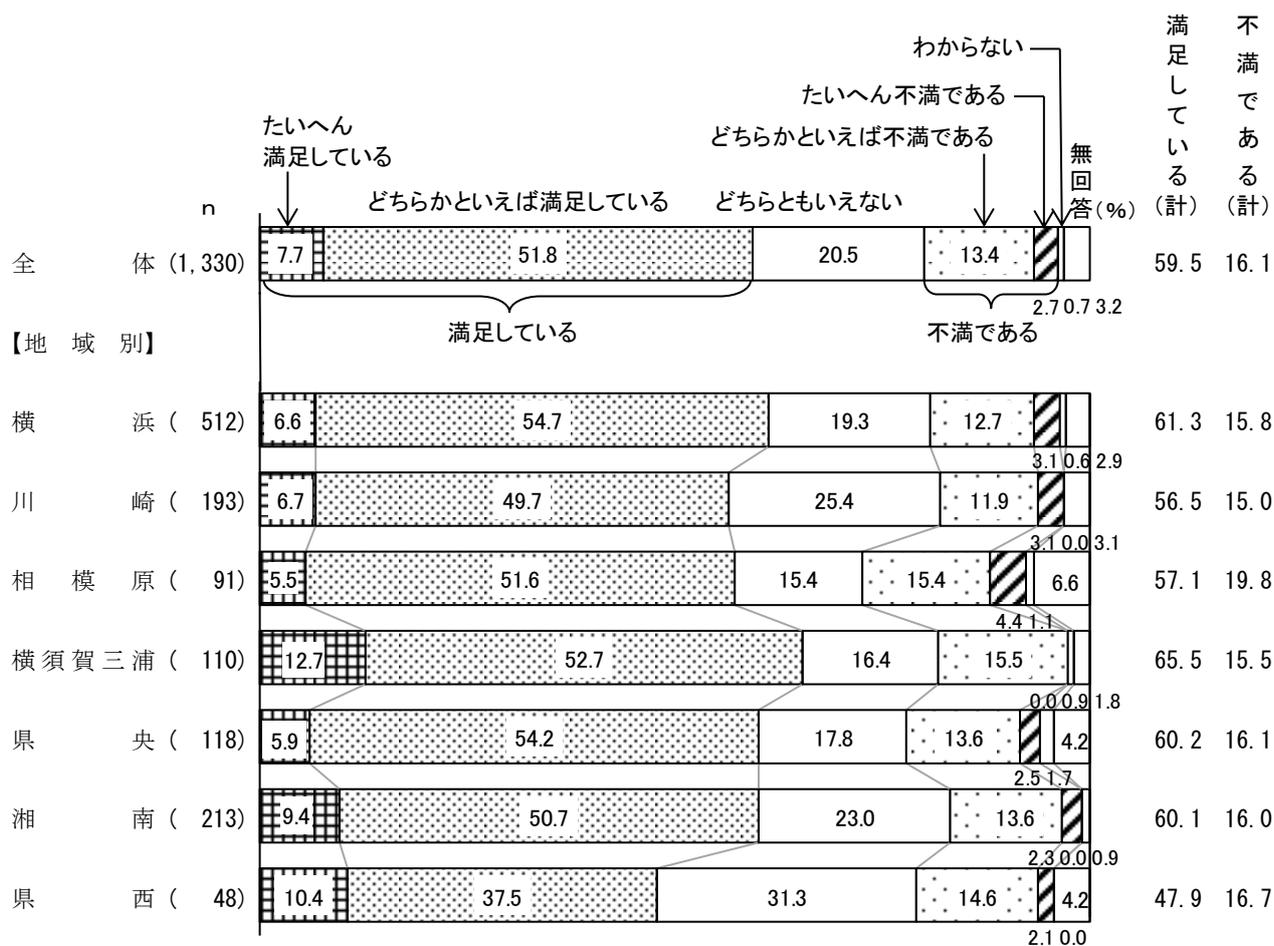


【地域別の状況】

地域別にみると、《満足している》は、横須賀三浦が65.5%で最も多かった。

一方、《不満である》は、相模原が19.8%で最も多く、県西（16.7%）と県央（16.1%）が続いた。（図表1-1-2）

図表1-1-2 生活総合満足度—地域別

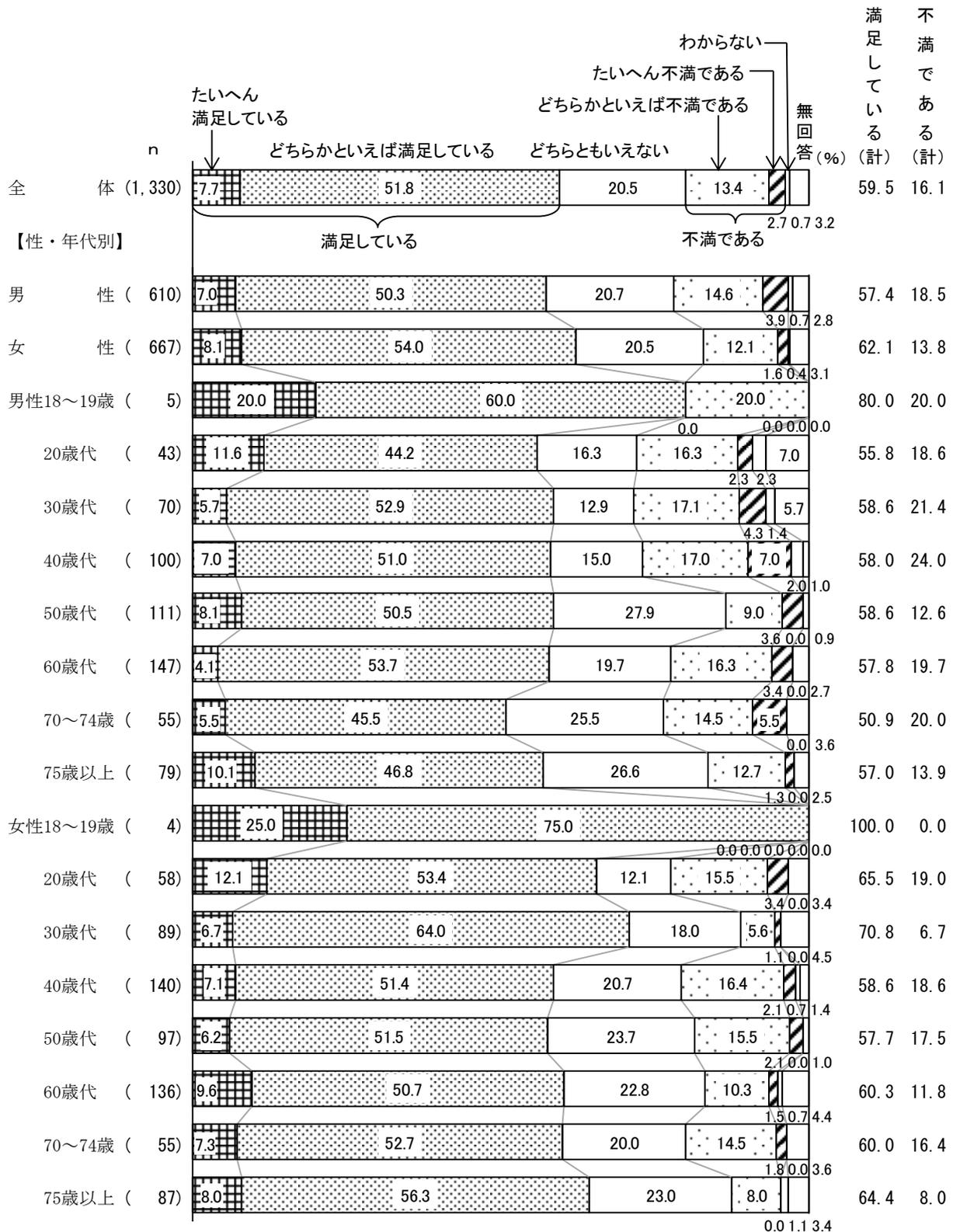


【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《満足している》は、サンプル数の少ない男女の18～19歳を除くと、女性の30歳代が70.8%で最も多く、次いで女性の20歳代が65.5%が多かった。

一方、《不満である》は、男性の40歳代が24.0%で最も多かった。(図表1-1-3)

図表1-1-3 生活総合満足度－性・年代別



2 暮らし向きの変化【問2～問2-1】

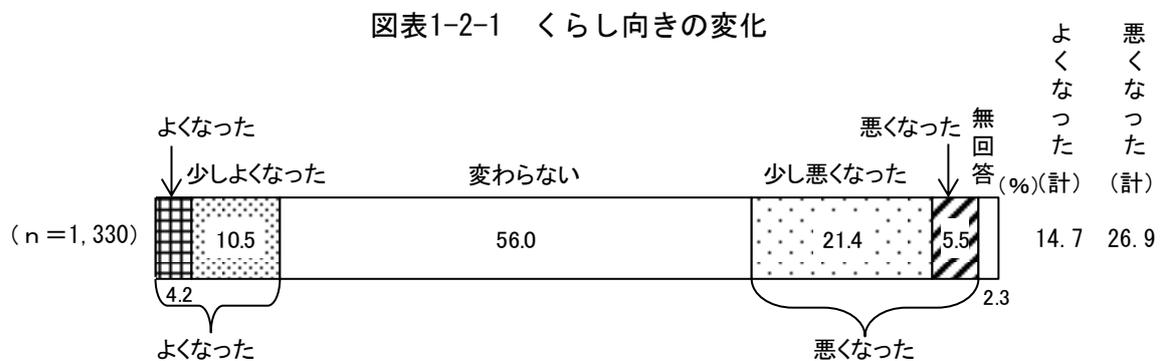
【全体の状況】

昨年と比較した現在の暮らし向きの変化について尋ねたところ、「よくなった」(4.2%)と「少しよくなった」(10.5%)を合わせた《よくなった》は14.7%であった。

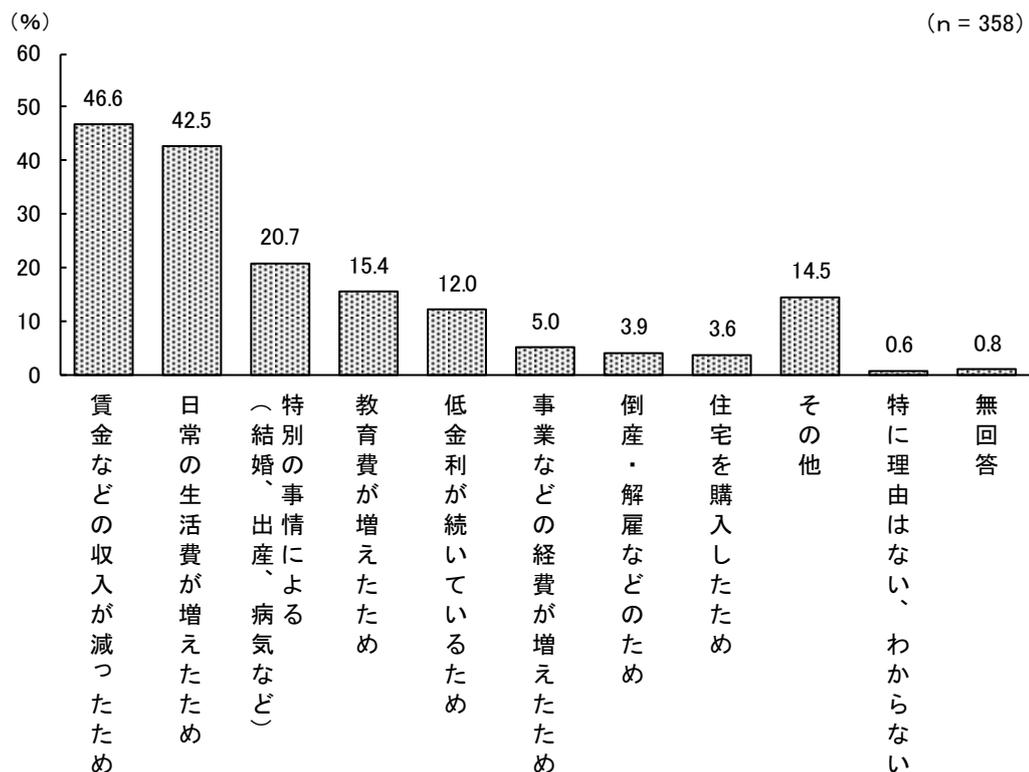
一方、「悪くなった」(5.5%)と「少し悪くなった」(21.4%)を合わせた《悪くなった》は26.9%で、《悪くなった》が《よくなった》を12.2ポイント上回った。

また、「変わらない」は56.0%となった。(図表1-2-1)

暮らし向きが《悪くなった》と回答した358人に、その理由を複数回答で尋ねたところ、「賃金などの収入が減ったため」が46.6%で最も多く、次いで「日常の生活費が増えたため」が42.5%であった。(図表1-2-2)



図表1-2-2 暮らし向きが悪くなった理由(複数回答)

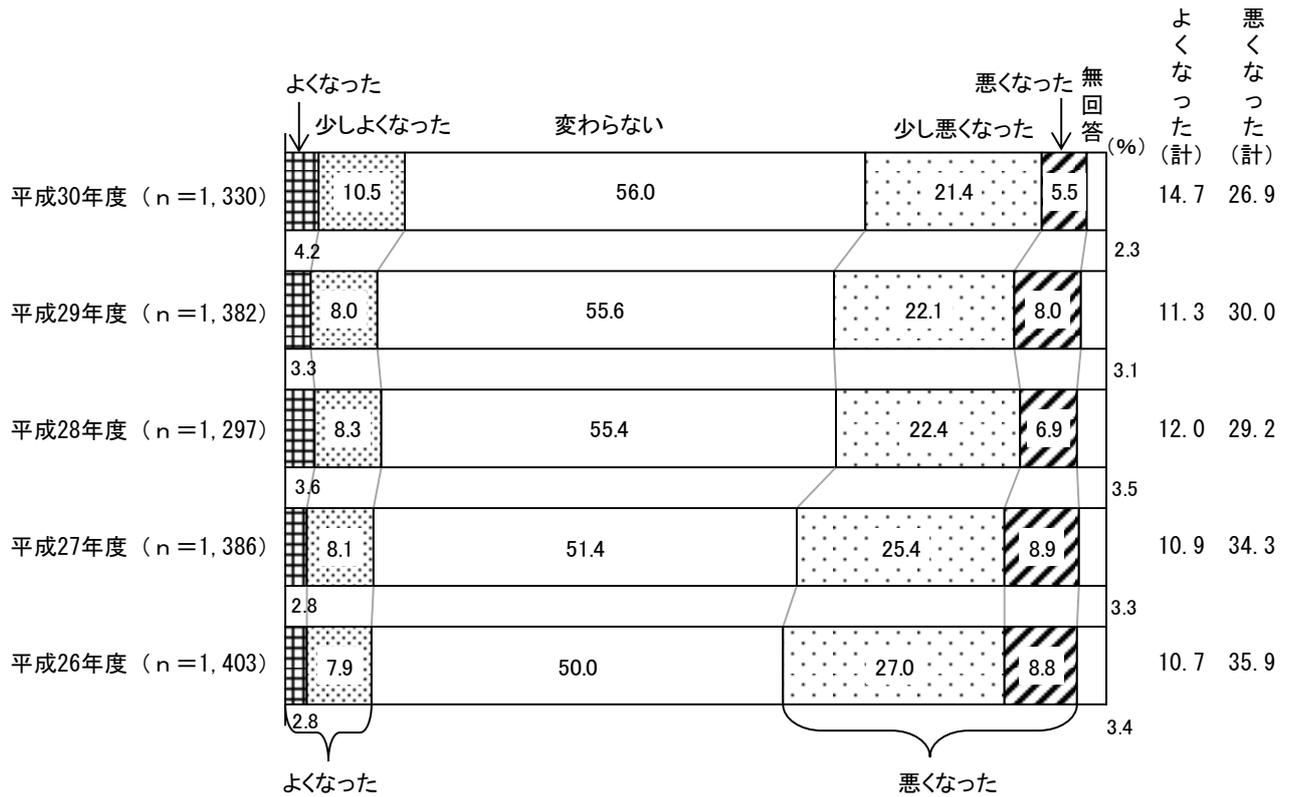


【過去との比較】

くらし向きの変化を過去4年間の調査と比較すると、《よくなった》は、大きな変化はみられなかった。

一方、《悪くなった》は、平成29年度は平成28年度と比べて0.8ポイント増（29.2%→30.0%）であったが、平成30年度は平成29年度と比べて3.1ポイント減（30.0%→26.9%）となった。（図表1-2-3）

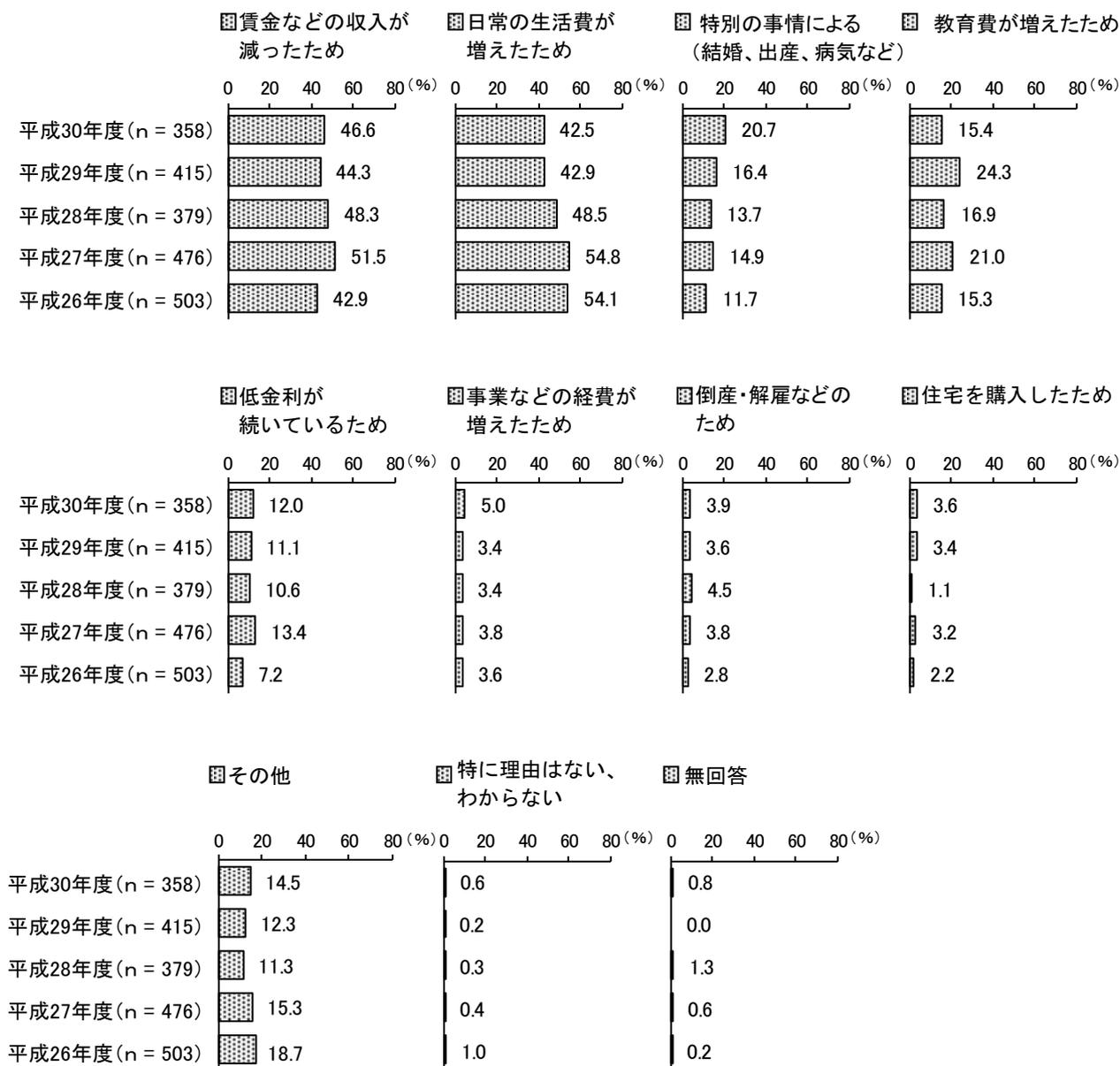
図表1-2-3 くらし向きの変化－過去との比較



くらし向きが《悪くなった》理由を過去4年間の調査と比較すると、「教育費が増えたため」は、平成29年度と比べて8.9ポイント減(24.3%→15.4%)となり、最も減少した項目であった。

一方、「特別の事情による(結婚、出産、病気など)」は、平成29年度と比べて4.3ポイント増(16.4%→20.7%)となり、最も増加した項目であった。(図表1-2-4)

図表1-2-4 くらし向きが悪くなった理由(複数回答)ー過去との比較



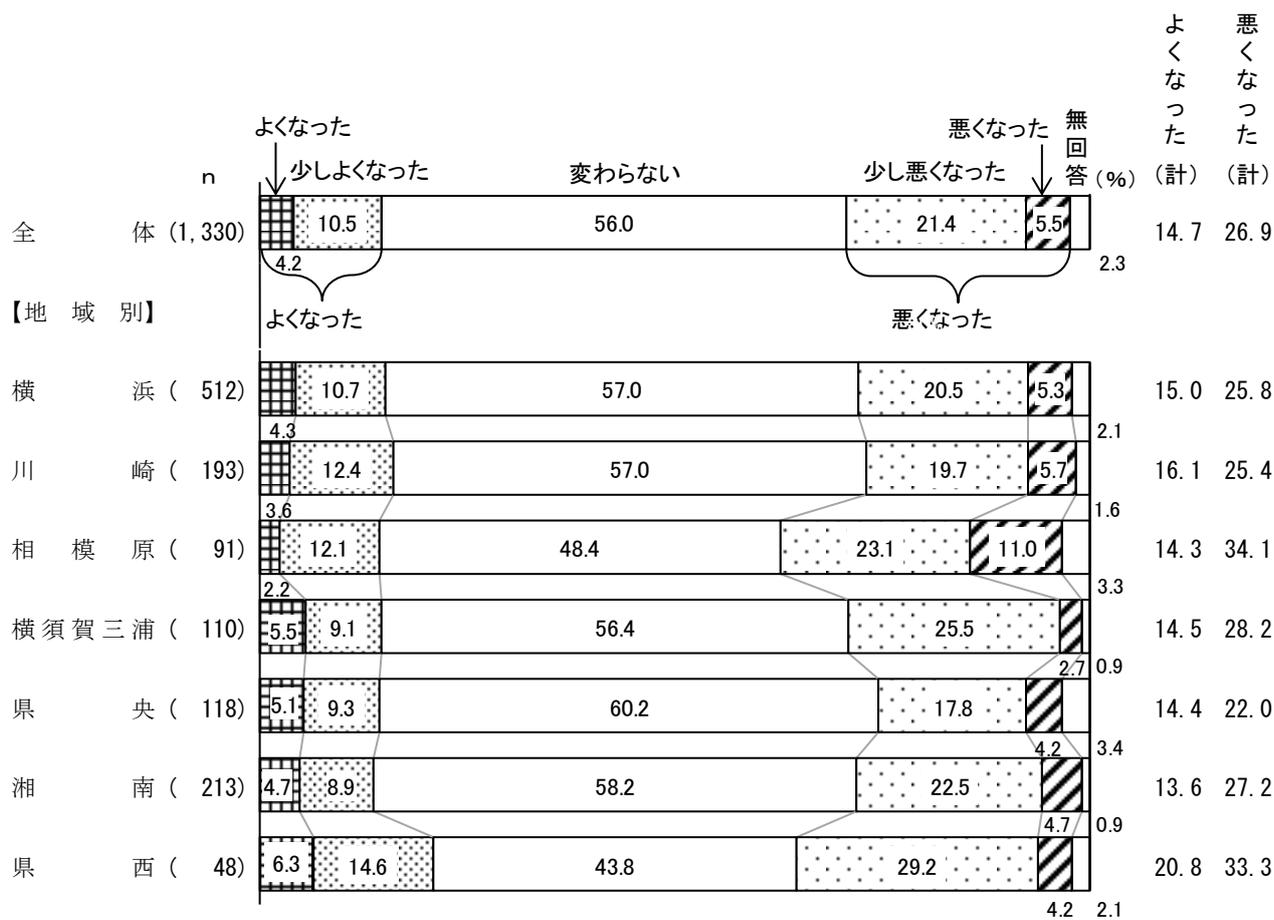
【地域別の状況】

くらし向きの変化を地域別にみると、《よくなった》は、県西が20.8%で最も多く、川崎(16.1%)と横浜(15.0%)が続いた。

一方、《悪くなった》は、相模原(34.1%)と県西(33.3%)がともに3割台であった。

(図表1-2-5)

図表1-2-5 くらし向きの変化—地域別



くらし向きが《悪くなった》理由を地域別にみると、「賃金などの収入が減ったため」は、横浜が51.5%で最も多かった。また、「日常の生活費が増えたため」は、県西（56.3%）、川崎（53.1%）がともに5割台となった。（図表1-2-6）

図表1-2-6 くらし向きが悪くなった理由（複数回答）－地域別

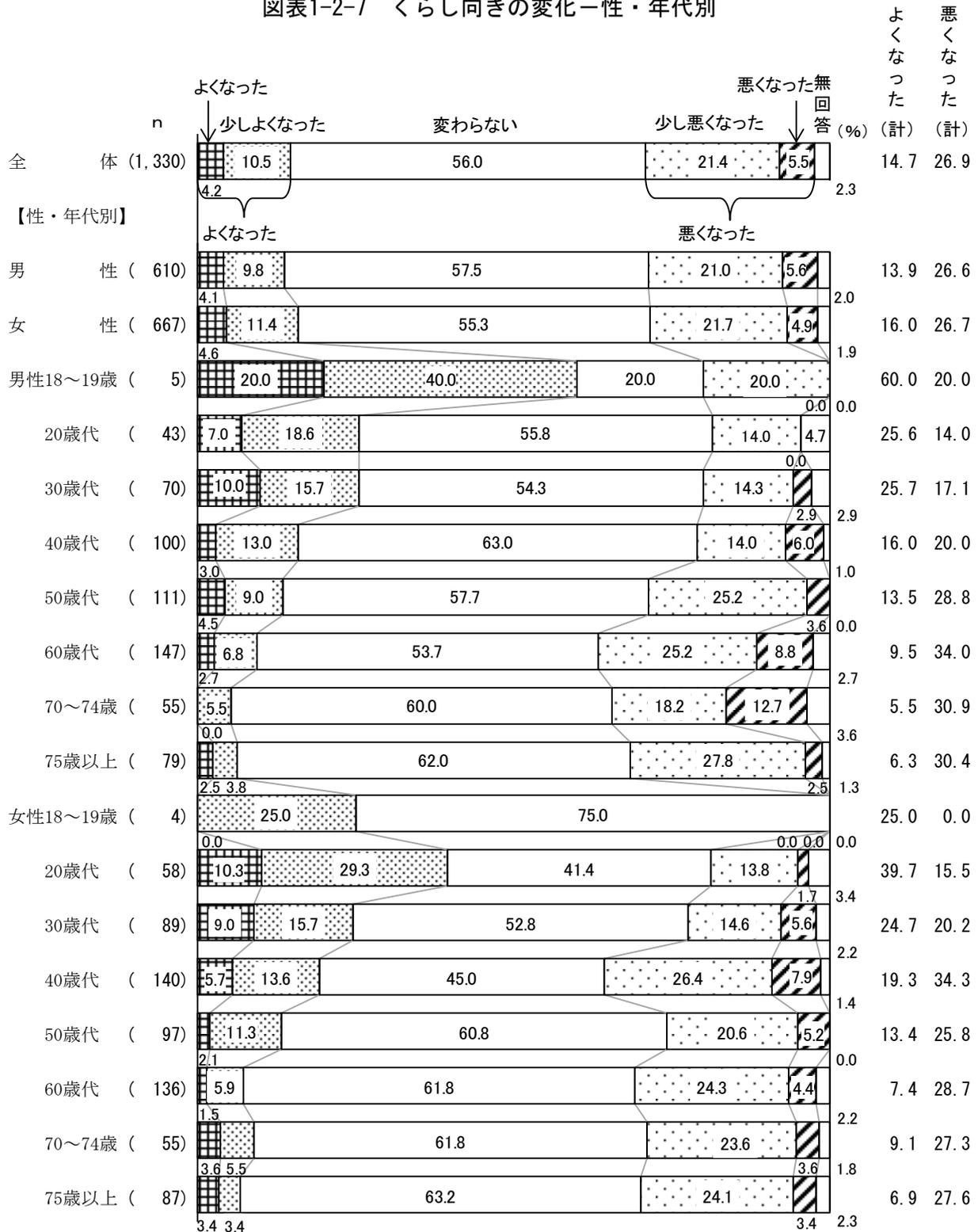
		(%)										
	n	賃金などの収入が減ったため	日常の生活費が増えたため	（特別の事情による） （結婚、出産、病気など）	教育費が増えたため	低金利が続いているため	事業などの経費が増えたため	倒産・解雇などのため	住宅を購入したため	その他	特に理由はない、わからない	無回答
全 体	358	46.6	42.5	20.7	15.4	12.0	5.0	3.9	3.6	14.5	0.6	0.8
【地 域 別】												
横 浜	132	51.5	37.9	18.2	18.9	12.9	4.5	4.5	5.3	12.1	-	1.5
川 崎	49	49.0	53.1	22.4	20.4	8.2	6.1	2.0	6.1	16.3	-	2.0
相 模 原	31	48.4	35.5	32.3	6.5	12.9	3.2	9.7	3.2	12.9	-	-
横須賀三浦	31	38.7	41.9	12.9	9.7	6.5	12.9	3.2	3.2	16.1	3.2	-
県 央	26	46.2	50.0	30.8	11.5	7.7	3.8	3.8	-	15.4	-	-
湘 南	58	44.8	43.1	19.0	13.8	17.2	3.4	3.4	1.7	10.3	1.7	-
県 西	16	43.8	56.3	12.5	25.0	12.5	-	-	-	18.8	-	-

【性・年代別の状況】

くらし向きの変化を性・年代別にみると、《よくなった》は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の20歳代が39.7%で最も多く、男性の20歳代(25.6%)・30歳代(25.7%)が続いた。

一方、《悪くなった》は、女性の40歳代が34.3%で最も多く、次いで男性の60歳代が34.0%であった。(図表1-2-7)

図表1-2-7 くらし向きの変化—性・年代別



くらし向きが《悪くなった》理由を性別にみると、「賃金などの収入が減ったため」は、男性(56.2%)が女性(39.9%)を16.3ポイント上回った。

くらし向きが《悪くなった》理由を性・年代別にみると、「賃金などの収入が減ったため」は、サンプル数の少ない男性の20歳代以下を除くと、男性の70～74歳が64.7%で最も多く、男性の50歳代(62.5%)・60歳代(64.0%)が6割台で続いた。(図表1-2-8)

図表1-2-8 くらし向きが悪くなった理由(複数回答) - 性・年代別

		(%)										
	n	賃金などの収入が減ったため	日常生活費が増えたため	特別の事情による(結婚、出産、病気など)	教育費が増えたため	低金利が続いているため	事業などの経費が増えたため	倒産・解雇などのため	住宅を購入したため	その他	特に理由はない、わからない	無回答
全体	358	46.6	42.5	20.7	15.4	12.0	5.0	3.9	3.6	14.5	0.6	0.8
【性・年代別】												
男性	162	56.2	43.2	13.6	14.2	15.4	8.6	4.9	2.5	14.8	-	0.6
女性	178	39.9	42.7	27.0	18.0	9.0	1.1	3.4	5.1	12.4	1.1	1.1
男性18～19歳	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	6	66.7	50.0	-	-	16.7	-	16.7	-	16.7	-	-
30歳代	12	41.7	41.7	16.7	33.3	8.3	16.7	8.3	-	25.0	-	8.3
40歳代	20	40.0	30.0	15.0	35.0	-	5.0	5.0	10.0	15.0	-	-
50歳代	32	62.5	34.4	12.5	34.4	12.5	21.9	-	3.1	6.3	-	-
60歳代	50	64.0	42.0	6.0	2.0	18.0	8.0	10.0	2.0	10.0	-	-
70～74歳	17	64.7	64.7	29.4	-	29.4	-	-	-	11.8	-	-
75歳以上	24	41.7	54.2	20.8	-	20.8	-	-	-	33.3	-	-
女性18～19歳	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
20歳代	9	33.3	55.6	44.4	-	-	-	11.1	-	-	11.1	-
30歳代	18	38.9	38.9	27.8	33.3	-	-	5.6	22.2	5.6	-	-
40歳代	48	43.8	54.2	27.1	43.8	4.2	2.1	4.2	-	14.6	2.1	2.1
50歳代	25	36.0	44.0	16.0	16.0	-	-	4.0	12.0	20.0	-	4.0
60歳代	39	56.4	28.2	33.3	-	10.3	-	2.6	-	7.7	-	-
70～74歳	15	6.7	46.7	33.3	-	20.0	6.7	-	6.7	26.7	-	-
75歳以上	24	33.3	37.5	16.7	4.2	29.2	-	-	4.2	8.3	-	-

3 今後の暮らし向きの見通し【問3】

【全体の状況】

今後の暮らし向きの見通しを尋ねたところ、「明るい」(5.0%)と「やや明るい」(11.4%)を合わせた《明るい》は16.4%であった。

一方、「暗い」(8.4%)と「やや暗い」(25.7%)を合わせた《暗い》は34.1%となり、《暗い》が《明るい》を17.7ポイント上回った。

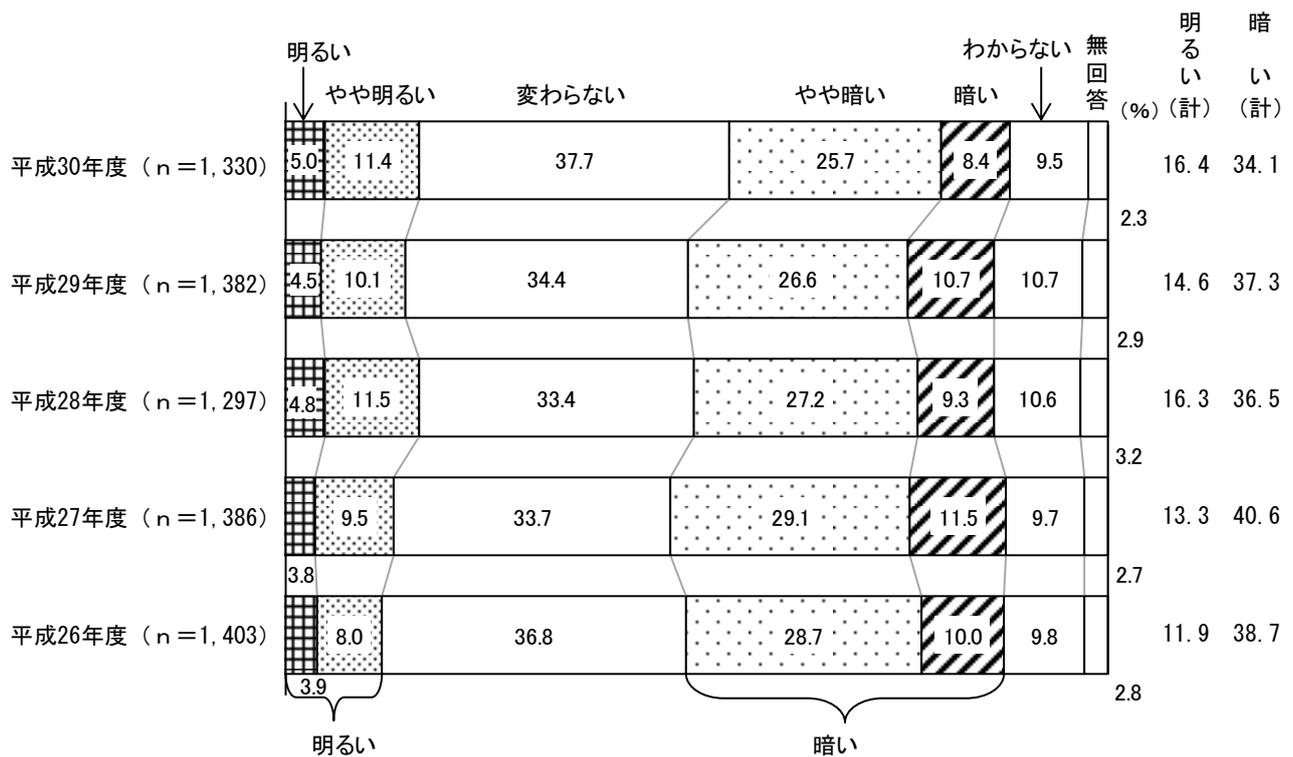
また、「変わらない」は37.7%であった。(図表1-3-1)

【過去との比較】

過去4年間の調査と比較すると、《明るい》《暗い》ともに大きな変化はみられなかった。

(図表1-3-1)

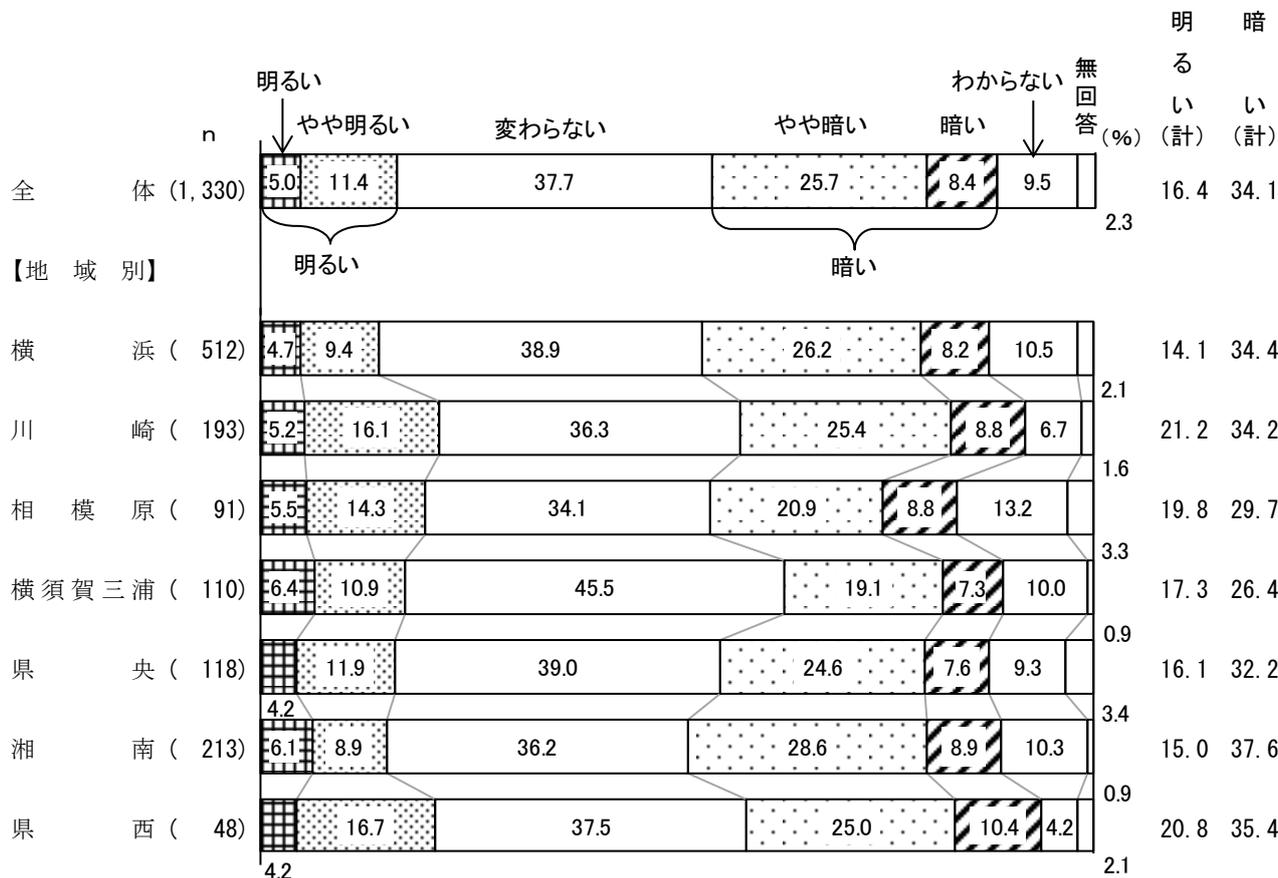
図表1-3-1 今後の暮らし向きの見通し—過去との比較



【地域別の状況】

地域別にみると、《明るい》は、川崎が21.2%で最も多く、次いで県西が20.8%であった。一方、《暗い》は、湘南が37.6%で最も多く、次いで県西が35.4%であった。（図表1-3-2）

図表1-3-2 今後の暮らし向きの見通し—地域別

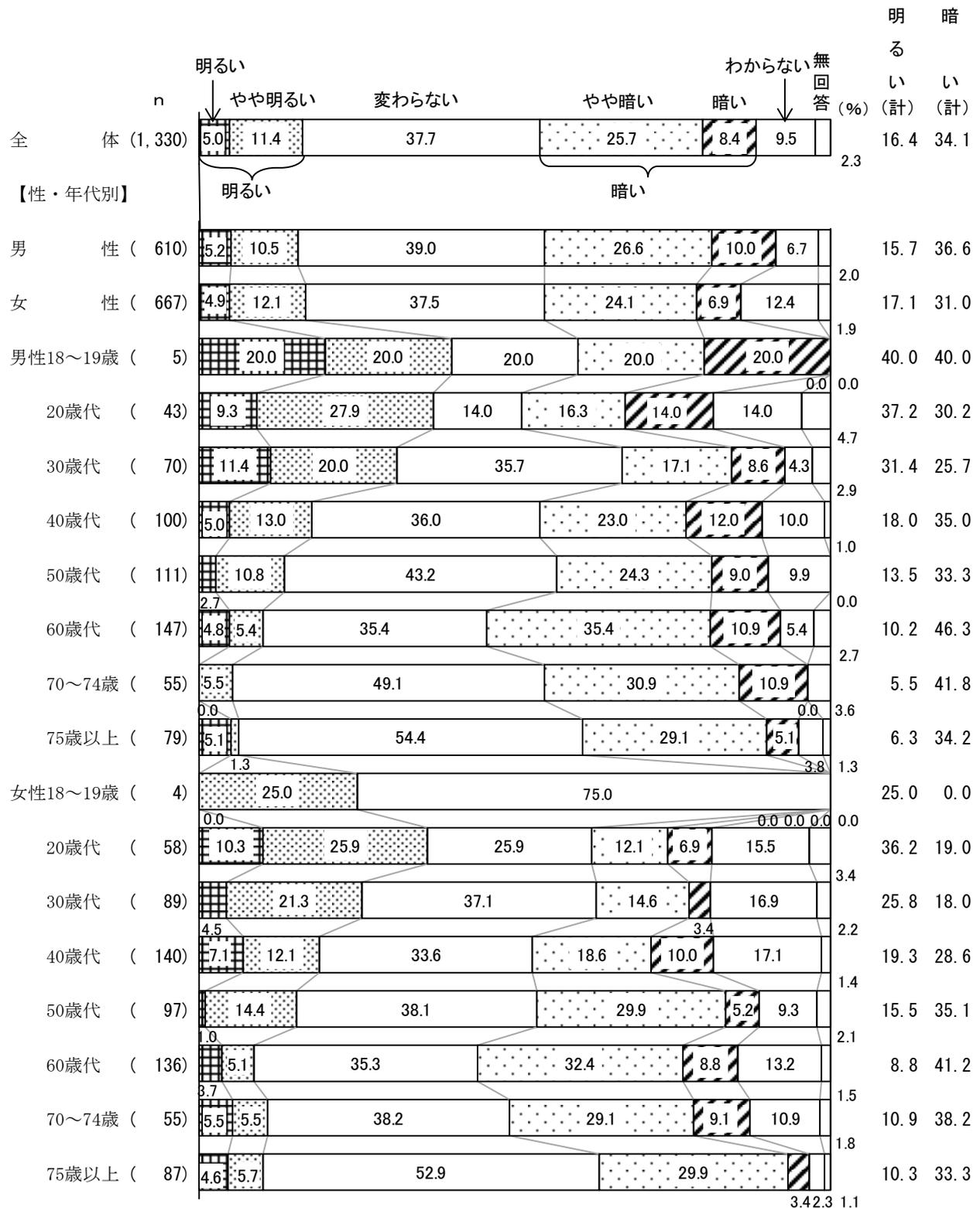


【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、《明るい》は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、男女ともに20歳代（男性37.2%、女性36.2%）が最も多かった。

一方、《暗い》は、男性の60歳代が46.3%で最も多く、男性の70～74歳（41.8%）と女性の60歳代（41.2%）が約4割で続いた。（図表1-3-3）

図表1-3-3 今後の暮らし向きの見通し－性・年代別



4 地域の住みよさ【問4】

【全体の状況】

現在住んでいる地域の住みよさについて尋ねたところ、「たいへん住みよい」(17.7%)と「どちらかといえば住みよい」(55.8%)を合わせた《住みよい》は73.5%となった。

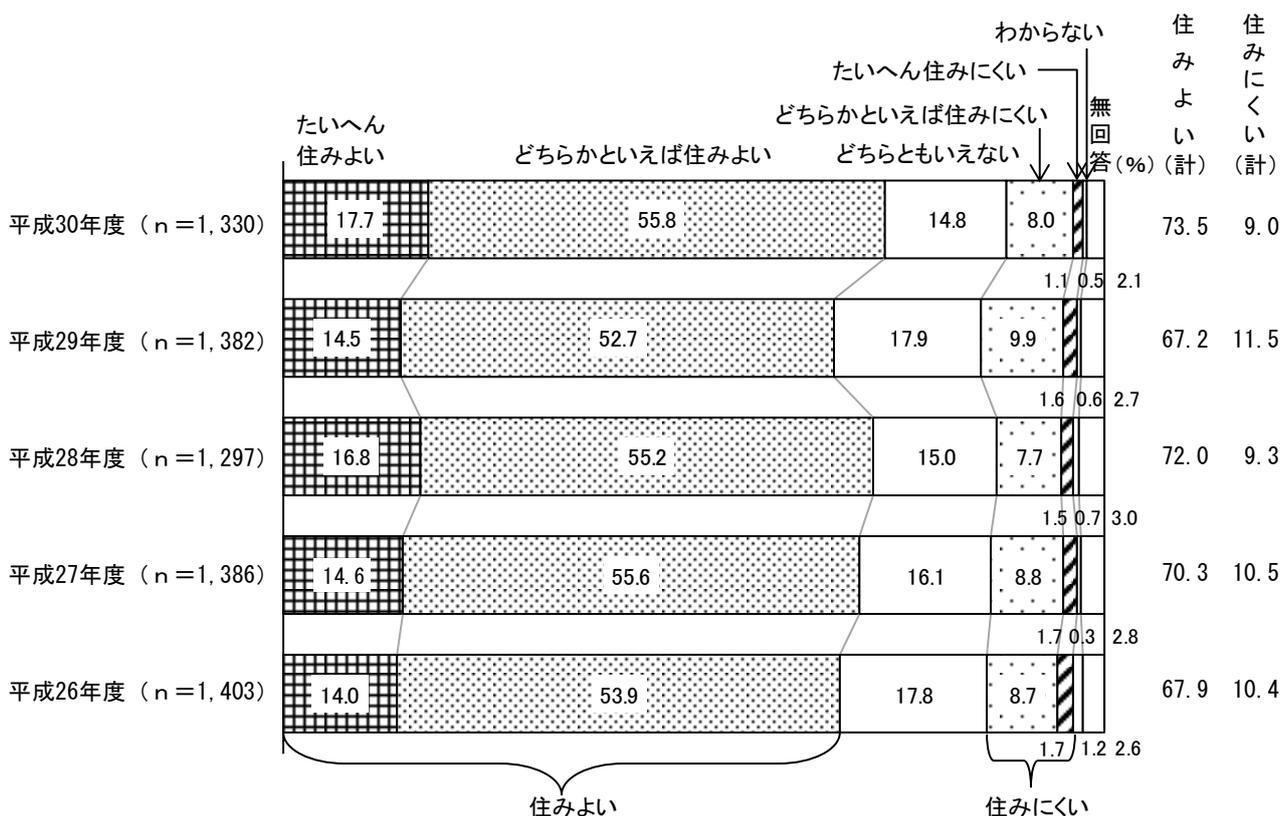
一方、「たいへん住みにくい」(1.1%)と「どちらかといえば住みにくい」(8.0%)を合わせた《住みにくい》は9.0%で、《住みよい》が《住みにくい》を64.5ポイント大きく上回った。(図表1-4-1)

【過去との比較】

過去4年間の調査と比較すると、《住みよい》は、平成30年度は平成29年度と比べて6.3ポイント増(67.2%→73.5%)となった。

一方、《住みにくい》は、大きな変化はみられなかった。(図表1-4-1)

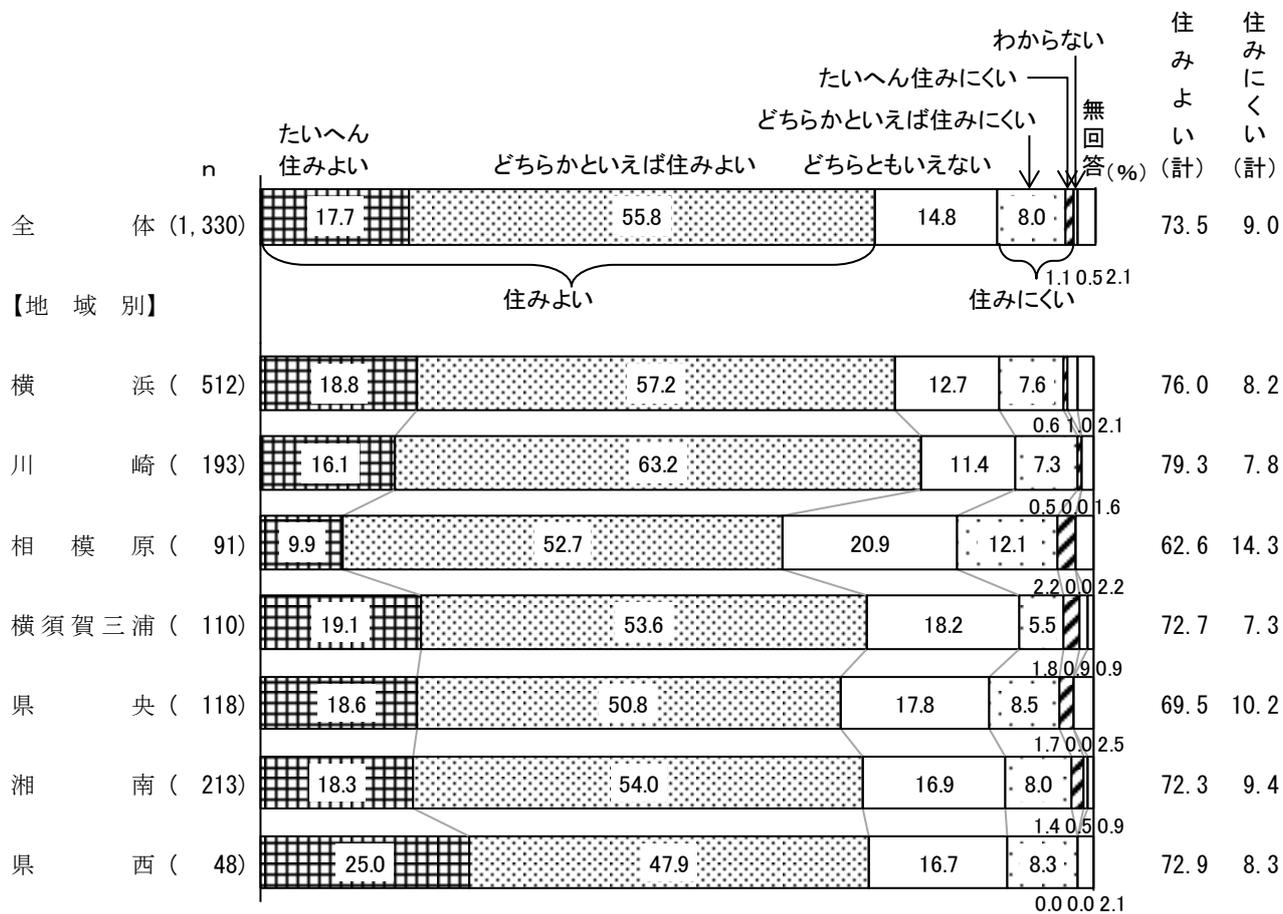
図表1-4-1 地域の住みよさー過去との比較



【地域別の状況】

地域別にみると、《住みよい》は、川崎が79.3%で最も多く、次いで横浜が76.0%が多かった。一方、《住みにくい》は、相模原が14.3%で最も多かった。(図表1-4-2)

図表1-4-2 地域の住みよさー地域別

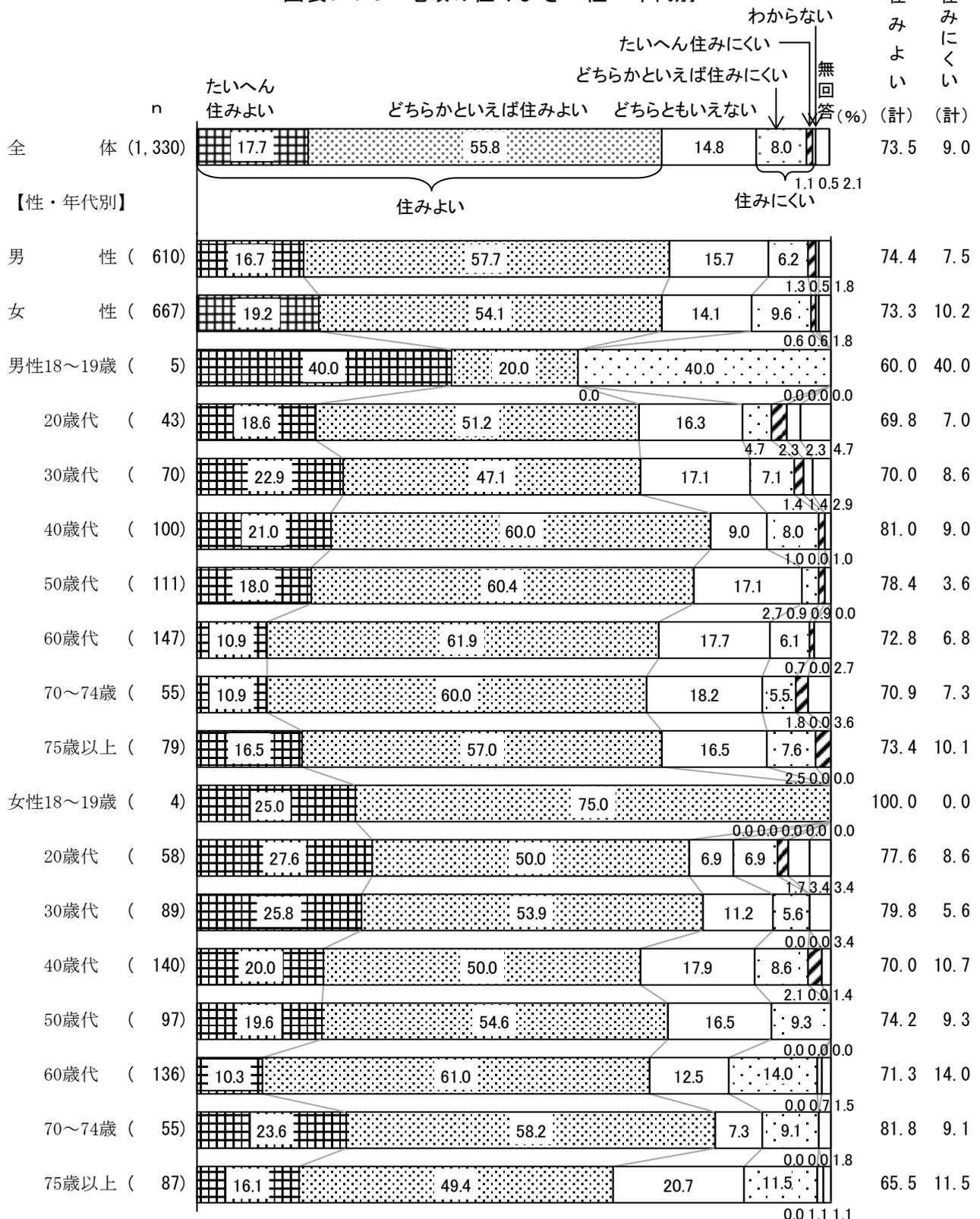


【性・年代別の状況】

性・年代別にみると、「住みよい」は、サンプル数の少ない女性の18～19歳を除くと、女性の70歳～74歳(81.8%)と男性の40歳代(81.0%)がともに約8割で多かった。

一方、「住みにくい」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の60歳代が14.0%で最も多かった。(図表1-4-3)

図表1-4-3 地域の住みよさー性・年代別



5 定住意向【問5】

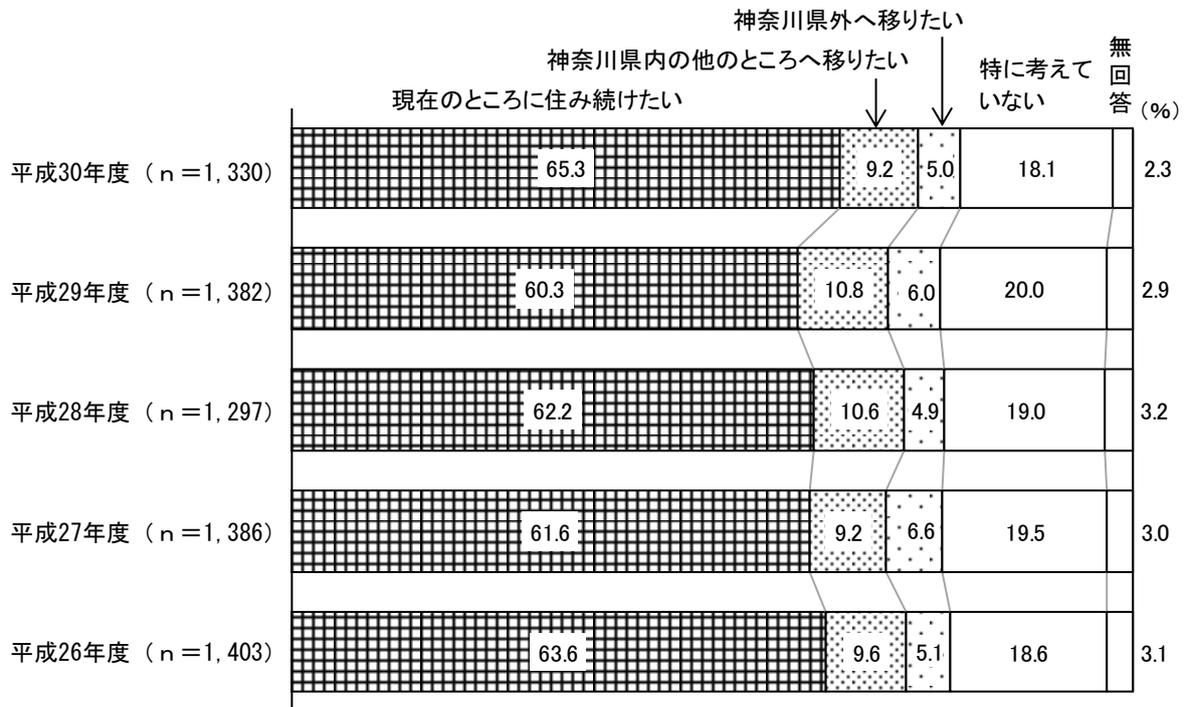
【全体の状況】

今後も現在のところに住み続けたいか尋ねたところ、「現在のところに住み続けたい」が65.3%で最も多く、「神奈川県外へ移りたい」は5.0%で最も少なかった。（図表1-5-1）

【過去との比較】

過去4年間の調査と比較すると、「現在のところに住み続けたい」は、平成30年は平成29年度と比べて5.0ポイント増（60.3%→65.3%）となった。また、「神奈川県内の他のところへ移りたい」「神奈川県外へ移りたい」は、それぞれ大きな変化はみられなかった。（図表1-5-1）

図表1-5-1 定住意向－過去との比較

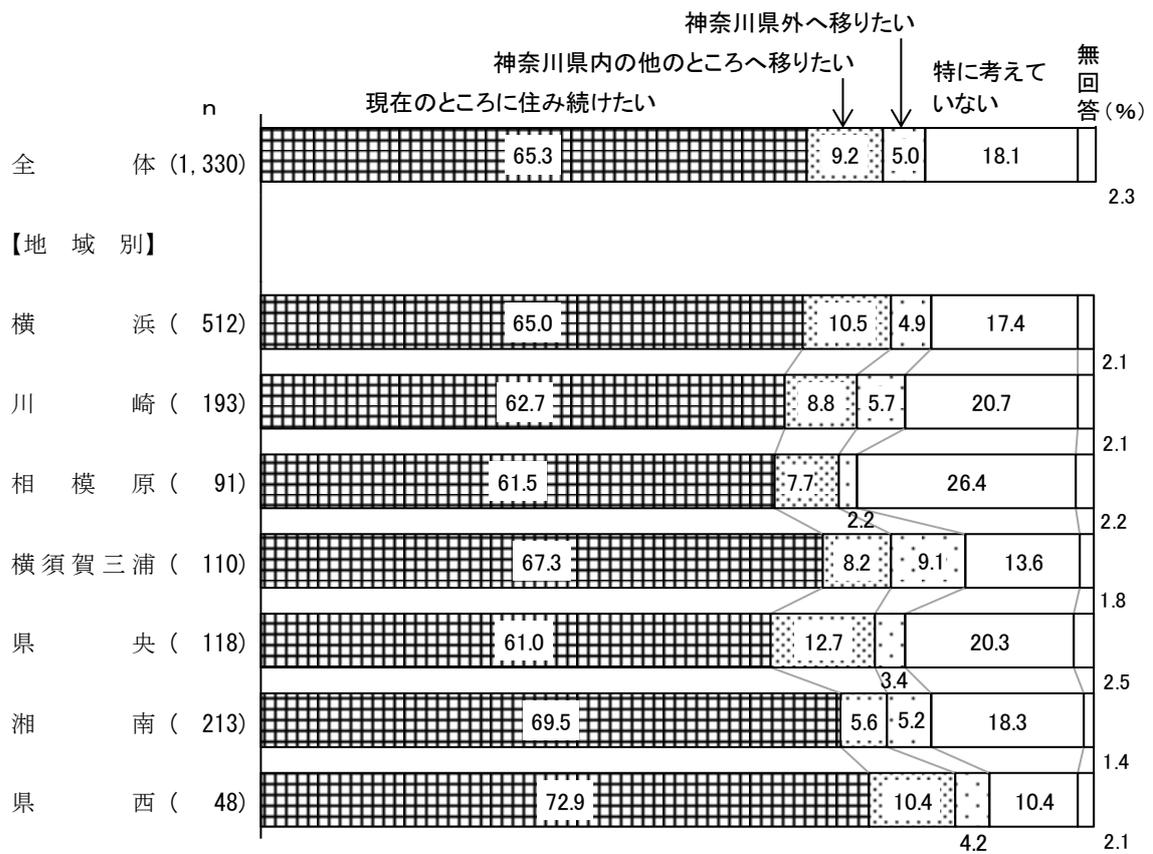


【地域別の状況】

地域別にみると、「現在のところに住み続けたい」は、県西が72.9%で最も多く、湘南（69.5%）と横須賀三浦（67.3%）が続いた。

一方、「神奈川県内の他のところへ移りたい」は、県央が12.7%で最も多く、横浜（10.5%）と県西（10.4%）が続いた。（図表1-5-2）

図表1-5-2 定住意向—地域別



【性・年代別の状況】

性別にみると、男女で大きな差はみられなかった。

性・年代別にみると、「現在のところに住み続けたい」は、女性の70～74歳（80.0%）・75歳以上（81.6%）がともに8割以上で多かった。

一方、「神奈川県内の他のところへ移りたい」は、サンプル数の少ない男性の18～19歳を除くと、女性の20歳代（15.5%）が最も多く、女性の30歳代（14.6%）・50歳代（14.4%）が続いた。

（図表1-5-3）

図表1-5-3 定住意向－性・年代別

